2014年（平成26年）
第84号
（12月1日）

平安月報

The HEIAN monthly report

発　行　所：立正佼成会　京都教会
発行責任者：渉外部長　宮地啓安
編集委員長：渉外広報　植田恭司
〒605-0041　京都市東山区三条蹴上
TEL (075)762-2211
FAX (075)762-2266

世界平和に取り組む「ＷＣＲＰの活動」を学ぶ

11月２日、京都普門館において「ＷＣＲＰ国際活動報告会」が行われ、ＷＣＲＰ国際事務総長のウイリアム・ベンドレイ師の講演と同副事務総長の杉野恭一師の「国際委員会活動報告」及び同国際評議員の酒井教雄師によるインターナショナル･トラスティーズ(国際評議員）・日本グループの活動報告を約７０名の会員が聴講しました。

ベンドレイ事務総長（写真上段中央）は、シリア問題やエボラ出血熱などの国際的な問題に対して、ＷＣＲＰが取り組んでいる様子を紹介しました。また現在９０ヶ国に及ぶ世界最大の宗教協力団体に至るまでの歴史や現在の組織、これから取り組もうとしている政府と宗教が協力して行う「トラック１．５（ワンポイントファイブ）」について説明しました。

続いて、杉野副事務総長（写真上段左）はアジアにおいてＡＣＲＰが、仏教とイスラムの協力により、ミャンマーやバングラディシュなどの和平に貢献してきたことを紹介し、そうした活動の根本となる庭野開祖の世界平和実現構想について説明しました。

最後に、７０歳を超えても世界中を飛び回る酒井師（写真上段右）ですが、その原動力になっているのは、庭野開祖が入寂される前に語った２つの言葉「仏さまの教えの分からない人があったら、あの手この手を使って導いてやってほしい」「ひとつの宗教で平和を目指してはいけないよ。あらゆる宗教と手を携えて平和を目指してほしい」だと述べました。

その後質疑応答があり、予定の時間をオーバーして熱のこもった話し合いがされました。「自分にもできることで、世界平和に役立つようになりたい」と聴講者は感想を述べていた。　（４面に講演要旨）

※インターナショナル・トラスティーズ(国際評議員)制度

1999年の「ＷＣＲＰ第７回ヨルダン大会」の時に、「ＷＣＲＰの財的支援と国際的認知度の向上」を目的に創設された。現在、世界で約100名のメンバーがいる。その内、日本グループ(通称ジャパニーズ・トラスティーズ)は約50名になる。

時々刻々

師走の語源は、師匠の僧侶がお経をあげるために、東西を馳せる月とする説があります。今年は政治家の先生が走り回る月になりそうです▼年末にお経をあげてもらい、お墓にお参りして掃除をします。こうして、一年間を無事に過ごせたことを先祖に感謝するという昔から習慣がありました▼あるお寺で地域の役員をされた物故者の慰霊法要がありました。先代の跡を継いだ若い住職が「それぞれの宗派が違っても故人を供養する心はひとつ」と述べ、檀家にこだわらないと語りました▼宗教家として、亡くなられた方を大事にする姿勢に共感を得る人も多いことでしょう。地域の中に信仰が広がることは望ましいことです▼今年も残りひと月。先祖への感謝を忘れず、身や心についた垢を落とし、一日一日を大事に過ごしたいものです。そして、清らかな心で新年を迎えたいと思います。

今月のことば　～合掌の心～

京都教会長　佐藤　益弘

今年も皆様には種々お世話になりました。厚く御礼申し上げます。

早いもので、師走を迎えました。本年も全国各地で災害が発生し、つい先月２２日にも長野県北部で震度６弱の地震があり、被害がございました。それぞれ被災地の皆様に心からお見舞いを申し上げます。

さて、本会機関誌『佼成』12 月号における会長先生ご法話は、「合掌の心」でございます。立正佼成会では創立当初より、日々の修行において、合掌しながら様々な修行に取り組ませて頂いております。また、合掌は仏教徒としてのあるべき姿そのものとも思わせて頂いております。本会では、合掌のほかにも大切にさせて頂いていることがあります。そのことを、私なりに「身口意の三業」（身業というのは身に行う＜行為＞、口業とは口で行う行為すなわち＜ことば＞、意業とは心で行う行為すなわち＜思い＞です。－『新釈 法華三部経』３巻３７頁－）に当てはめてみますと、

身業＝合掌
口業＝「日々ありがとうございます」、
　　「させて頂きます」
意業＝お蔭さまの心、感謝の心、素直な心

というように受けとらせて頂きますし、全国どこの教会においても大切なこととして行じております。したがいまして上記の三つをまとめて表現すると、「合掌の心」ということになるものと思う次第です。それほど根本となる大事なお話をいただきました。

ご法話の前段で、「謙虚に自己を見つめる」ということを教えていただき、後段では、「人間に生まれたことを喜ぶ」ということを学ばせて頂きました。ご法話を読み、私は内省することを通して、一番ありがたいことに気づくと合掌礼拝の姿になり、心も同時に仏さまの心にならせて頂けるということを教えて頂いたのだと思います。本会は「仏になる会」です。よって、日々の生活において、常に仏さまのような心もちになって精進させて頂くことが肝要だと思います。

ご法話の最後に「すっきりとした気分で新年を迎えたいものです」というのがあります。とかく忙しい中にあって、思うようにことが進まないと、八つ当たりしたりして怒りが収まらないことになったりします。実は、先月に次のようなことがありました。お蔭様で私の孫が七五三を迎え、神社にお参りさせて頂きました。宮司さんお出ましの中、祝詞を奏上していただき、有り難い御参りができたのであります。そこまで順調に予定が進んでおりました。それから、昼食を皆で一緒に頂戴し、京都での会議に出るため東京駅に向かったのですが、渋滞に巻き込まれ、車を運転してくれている家内に、「黄色信号でも突き抜けろ」とか言って急がせました。しかしながら、僅かに間に合わず、予定の新幹線に乗り遅れました。「あ～あ、２０分遅れてしまった」とつぶやき、家内がもう少し上手く、早く運転してくれれば…という心でいました。その後、１２月号のご法話を読み、誠に申し訳なかったとお詫びし、すっきりとした気分になれたのでした。このように至らない者ですが、明年も宜しくお願い申し上げます。

合掌

子供たちの成長をほほえましく見守る　～教会で七五三参り～

１１月１日、京都教会で七五三式典が行われ、３７名の子供たちが参加しました。

晴れ着を身につけた子供たちが多くの会員に拍手で迎えられて入場。一人ひとり紹介されて聖壇に上がり、支部長から記念品（千歳飴）をいただきました。

「子供たちの大好きな妖怪ウォッチのプラカードを先頭に、着物やドレス、格好いい服装で着飾り子供たちが登壇。

一人ずつの夢やエピソードを添えて子供たちを紹介し、会場は和やかな笑いで包まれとても微笑ましい雰囲気になりました。

これからもこの子供たちが健やかに幸せに成長してくれますように願います」

と式典を担当した婦人部長は語っていました。

教養の秋　ー心広くなれる学びをー

アリヤラトネ博士　講演会

１１月２０日、キャンパスプラザ京都において、京都造形芸術大学・東北芸術工科大学・「文明哲学研究所」が主催して、スリランカの農村開発運動指導者であるＡ・Ｔ・アリヤラトネ博士による講演会が開催されました。博士は第 9 回庭野平和賞（1992 年）を受賞されたこともあり、本会からも 20 人ほどが聴講した。

講演「世界平和を実現する文明の展望」と題して行われ、博士は「これからの世の中は『知識による社会』から『智慧による社会』にしていかないといけない」「万物は流転し、あの世に持っていけるものはこの世での業だけだと知ること」「仏教では３つの敵ー①欲望、②無智、③憎しみーがあり、慈悲・奉仕・自己開発に取り組むこと」と語った。

広く受け入れる心を持とう

11 月 28 日、ハートピア京都において京都府と京都府宗教連盟が主催して、宗教法人関係者人権問題研修会が開催されました。

今回は、毎日新聞社・編集局社会部・記者の林由紀子氏により「差別と向き合う子どもたちを取材して」と題して講演が行われました。その後、浄土宗・人権同和会室長の山北光彦氏から活動報告。「同和と人権～あなたはどう考えるか～」の映画鑑賞がありました。

林記者が 2009 年に取材した弥栄中学校の人権劇と研究発表を通して、差別されていた子供たちが同級生に受け入れられて、差別する心がなくなっていく様子を紹介しました。こうした、すべてを受け入れる姿勢を宗教者自身が身につけていくものと教えられました。

信仰者だから政治に関心をもちたい　～政治への取り組みについて～

「明るく　優しく　温かい　人になろう」という目標を持ち、正しい信仰生活を心がけています。真理を知る智慧を持ち、慈悲深い人を目指そうとしています。この姿勢を政治に対しても持っていたいものです。

■人々の幸せを願って一票を投じる

暮らしが良くならないのは、政治が良くないから、政治を変えないといけない。また、口ではいいことを言っておきながら、約束を守らないから政治家は信用できないと思っていたことがありました。

選挙で多くの国民は自分が得することを期待して投票する。選ばれた議員も自分の都合に合った政治をしようとする。だから、ある人には良いが、ある人には悪い政治になる。これは因果の道理でしょう。いい政治になるための大本は、一人ひとりがどんな心をもって投票するかによるのではないでしょうか。

伝教大師は「忘己利他（己を忘れ他を利する）は慈悲の極みなり」と説かれました。まず、有権者自身が周りの人々、日本・世界の人々が幸せになってほしい、子供や孫の世代にも幸福が続いてほしいと願って、一票を投じる。そこから、良い政治が行われる一歩が始まるのではないでしょうか。

■人物本位で投票する候補者を選ぶ

それでは、誰に投票すればいいのでしょう。政治を動かすのは政治家一人ひとりの人間です。ですから、人物をよく見て選びたいものです。本当に人々の幸福を願っている人、何よりも困っている人や弱い立場の人を大切にする人、力に頼るのでなく対話や調和を大切にする人、神仏をあがめ謙虚な人、このような人物が望ましいでしょう。

しかし、私たち自身も不完全ですから、完全な人を求めるのはできません。「ベストでなくてもベターな人」を選んでいくことが大切でしょう。

■「いのちを大切に」「平和を築く」政治を

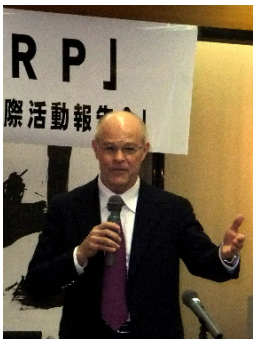
本会は今年政府に対して２つの提言を行っています。**『集団的自衛権の行使容認』**と**『エネルギー基本計画』**です。（詳細は立正佼成会のホームページで）

憲法解釈の変更による集団的自衛権の行使に関しては反対する意思を表明しております。仏教徒として不殺生・非暴力の精神に基づき、軍事によらない平和への取り組みを求めています。

原発問題に対しては、福島原発の事故を起こした原因は、経済的な豊かさのみが幸福の源泉だと信じてきた私たち一人ひとりにあるということを反省し、私たちの生活様式や考え方を変えていく（少欲知足）ことで、原発という危険なものに依存しなくてもいい社会を作り上げたいと考えています。

14 日には、箱の向こうにいる多くの人々の幸せを願って投票したいものです。　（編集者）

「ウイリアム・ベンドレイ国際事務総長」講演要旨



シリアは、政府、反政府、テロが支配する地域があり、その中でＷＣＲＰは６か所の活動拠点を設けている。現地では日本の仏教団体が支援していることを知っていて、好意的に受け入れられている。ＷＣＲＰは人道支援を進めている。食糧支援や子供たちが勉強できる環境づくりを行っている。

また、エボラ出血熱に対しても宗教協力を通して支援している。ユニセフに２０万ドルを提供した。

このような世界的な問題に対してＷＣＲＰが対応できるようになったのは、ＷＣＲＰ第１回京都大会がすべての始まりだった。昨年、第９回ＷＣＲＰ世界大会が行われ、世界最大の宗教協力団体に成長した。

現在、９０ヶ国に各国組織があり、地方・国・大陸・国際の４つのレベルを設けている。こうした宗教間の協力に加えて、政府と宗教が協力して行う『トラック1.5（ワンポイントファイブ）』を進めていく。

数年前にアメリカ国務省が行った調査で、ＷＣＲＰが世界のすべての地域に存在し活動していると知り、その調査をもとにアメリカ政府は宗教と協力する必要を認識した。

ＷＣＲＰは４５年間様々な活動をしてきたが、さらに発展する必要がある。ＷＣＲＰの課題は、これまでの「軍縮」「開発」に加え、「暴力的な過激主義、テロ」「環境問題」「食糧問題」「自然と人間」「気候変動」に対する宗教者の役割を明示していきたい。

国会議員による「ＷＣＲＰ国際活動支援懇談会」が発足

11 月４日、参議院議員会館において**「WCRP 国際活動支援懇談会」**が開催されました。この取り組みは**「トラック 1.5」(政府と民間の共同事業)** という考え方に基づき、**互いに協力しあって世界平和に貢献をしたいとの願い**から、WCRP 国際評議員の酒井教雄師と同日本グループの田中常隆代表らが中心となって、数年前から進めて来たものです。

今回、WCRP 国際事務総長のウイリアム・ベンドレイ師と副事務総長の杉野恭一師をニューヨークから招き、懇談会の共同代表として自民党の谷垣禎一氏と民主党の岡田克也氏。幹事長に自民党の逢沢一郎氏。事務局長に民主党の藤田幸久氏がそれぞれ就任し、**超党派の国会議員による支援組織**として正式に発足しました。

当日は、衆議院・参議院の閣僚経験者をはじめ、元国連事務次長の明石康氏や WCRP 日本委員会理事長の杉谷義順師と ACRP 事務総長の畠山友利師。本会からは赤川恵一外務部次長。また外務省からの担当者も参加し、文字通り**「官民一体」**となった協力体制が構築されました。

懇談会の冒頭、共同代表として挨拶に立った谷垣氏は**「私は選挙区が京都ということもあり、WCRP の活動には以前から関心を持っておりましたが、その WCRP と呼応する議員の集まりが出来ました。宗教者の英知と政治家のパワーとを合わせ、足らざるところを補い合うことが、平和構築には極めて必要なのではないかと思います」**と述べ、同じく挨拶に立った岡田克也氏は**「この枠組みは、日本の宗教界の力を尽くして出来上がっていると理解していて本当に素晴らしいもので、今まで政治家としてその下支えと後押しが充分に出来てなかったと思います。今後はしっかりと手を携えて、我々が政治家として出来ることをしていきたいと思います」**と、それぞれ力強い抱負を語りました。

その後、ベンドレイ事務総長と杉野副事務総長により WCRP の活動が報告され、質疑応答では参加議員からの積極的な質問もあり、この取り組みへの関心の高さを感じさせるものでした。この懇談会は、今後定期的に開催される予定です。

●１２～１月の主要行事予定

１２月	４日	開祖さまご命日	9：00～
	８日	成道会	9：00～
	１０日	脇祖さまご命日	9：00～
	１５日	釈迦牟尼仏ご命日・布薩の日	9：00～
１月	１日	元旦参り	6：30～
	７日	御親教	9：00～
	１０日	脇祖さまご命日	9：00～

●メッセージ

最近、本紙やブログ（ニコニコサンガ）を楽しみに見ているという方の声をよく聞きます。おかげさまで７年間継続することができました。この間、世の中は大きく変わってきました。世界が平和で、私たちの心が平安に過ごせることを願って本紙を発行しました。そうした取り組みをよりカ強く継続することが、ますます必要になってきたと痛感する今日この頃です。